

2017年8月23～24日 ④ 24日6時現在

加藤紘一、パナマ文書、声・主張、歴史の記録

加藤紘一 元自民党幹事長をしのぶ会
NHK8月23日21時17分



去年9月に亡くなった、加藤紘一 元自民党幹事長をしのぶ会が、23日夜、東京都内で開かれ、生前、親交のあった政界関係者らが、加藤氏の足跡を振り返りました。

加藤紘一 元自民党幹事長が去年9月に亡くなってから1年になるのを前に開かれた、しのぶ会には、親交のあった政界関係者らおよそ500人が出席しました。

この中で、会の発起人の1人で、加藤氏や小泉元総理大臣とともに「YKK」と呼ばれて盟友関係にあった山崎元自民党副総裁は『「YKK」の3人で政界で暴れさせてもらったが、中心はいつも加藤氏だった。加藤氏が総理大臣にならなかったことは、私にも責任の一端があり、支え方が足りず、申し訳なく感じている」と振り返りました。

また、かつて加藤派に所属し、平成12年のいわゆる「加藤の乱」をきっかけに、加藤氏とたもとをわかった自民党の岸田政務調査会長は「政治家として政策をどう練り上げるのか基本から教えてもらった。また、『加藤の乱』を通じて政治の厳しさを教えてもらい感謝している」と故人をしのびました。

このあと、三女の加藤鮎子衆議院議員が「早いもので1年がたとうとしているが、父の新しいエピソードと今も出会うことが多くあり、新しく父と出会った気がするせいか、父との別れにいまだに実感が伴っていない」と、あいさつしました。

パナマ文書で判明、31億円申告漏れ 国税当局が調査
朝日新聞デジタル磯部征紀、田内康介 2017年8月24日05時05分

世界の富裕層によるタックスヘイブン（租税回避地）の利用実態などを明らかにした「パナマ文書」に名前があった日本関連の個人や法人について、日本の国税当局が調査を行い、今年6月までに所得税など総額31億円の申告漏れがあったことがわかった。ほかに自主的に数億円規模の修正申告をした個人も複数いたとされ、パナマ文書をきっかけに把握した申告漏れは少なくとも40億円弱に上ると

みられる。

この中には、携帯電話・OA機器販売会社「光通信」（東京）の重田康光会長（52）が、パナマ文書に記載された英領バージン諸島の法人の株式譲渡をめぐって約3億7千万円の申告漏れを指摘された事案も含まれているとされる。パナマ文書は欧米など世界各国で税務調査などの端緒になったが、国内で具体的な課税事案が明らかになるのは初めて。

関係者によると、国税当局は昨夏以降、パナマ文書に絡む税務調査に本格的に着手。今年6月までに関連する個人や法人について、全国で数十件の調査を行った模様だ。調査対象には、文書に登場する個人だけではなく、その個人が代表となっていた関連法人なども含まれているという。

その結果、国税当局は複数の事案で申告漏れを指摘。個人が中心で、海外投資で得たもうけが申告から漏れていたケースなどがあつた。また、タックスヘイブンとは関係のない国内取引に関する申告漏れも見つかったとされる。

海外取引が絡む税務調査は一般的に、現地の税務当局などに情報を照会して回答を得るのに時間がかかるなど、調査が長期化するケースもある。パナマ文書関連の調査は7月以降も続いているとみられ、申告漏れの指摘額は今後も増える可能性がある。

国際課税をめぐっては、2018年に約100の国・地域が参加する金融口座情報を自動で交換する仕組みが始まるなど、国際的な課税逃れの対策が進みつつある。（磯部征紀、田内康介）

◇

〈パナマ文書〉 タックスヘイブン（租税回避地）での会社設立に携わる中米パナマの法律事務所が作成した業務用ファイルで、顧客とのやり取りや登記関連の申請書類など1150万点の情報が含まれる。非営利の報道機関「国際調査報道ジャーナリスト連合」が昨年5月、法人や株主らの名前や住所をインターネット上で公開した。

80カ国で数千億円、脱税の疑い パナマ文書もとに追跡
朝日新聞デジタル編集委員・奥山俊宏 磯部征紀、田内康介
2017年8月24日05時06分

世界の富裕層や著名人とタックスヘイブン（租税回避地）との関わりを暴露したパナマ文書。海外当局による税務調査などが各地で進む中、日本でも文書を手がかりにした国税当局の課税の実態が明らかになった。

中米パナマの法律事務所「モサク・フォンセカ」から流出した1150万点の電子ファイル群「パナマ文書」に基づく報道は昨年4月、朝日新聞を含む、約80カ国の100余の報道機関が参加して一斉に始まった。

この報道を主導した国際調査報道ジャーナリスト連合（ICIJ）の同年暮れのまとめによると、欧州や米州の大部分の国々、韓国、インド、豪州を含む約80カ国で少

なくとも150件の捜査・検査・訴追・逮捕がパナマ文書をきっかけに行われた。

法人を含め6500の納税者が当局の調査の対象となり、コロンビアやメキシコ、スロベニアなどの当局がパナマ文書の情報を使って少なくとも約1億1千万ドル（約120億円）相当の資産を差し押さえた。さらに数十億ドル（数千億円）が脱税の疑いで追跡の対象となっているという。

今年2月には、震源地となった…

（ナガサキノート）墓に守られた命「自分も胎内被爆者」
朝日新聞デジタル山野健太郎・36歳 2017年8月23日 18時26分



三

角さんの母が避難した妙行寺境内の墓＝長崎市

■三角紘容さん（1946年生まれ）

長崎市の大浦天主堂近くに「祈りの三角ゾーン」と呼ばれる一帯がある。教会と寺と神社が半径50メートルほどの範囲に並ぶ。多彩な文化が混在する、長崎ならではの光景だ。三角紘容（みすみこうよう）さん（71）は、その一画にある妙行（みょうぎょう）寺の17代目住職。江戸時代の初頭に創建された寺も、原爆の記憶を抱えている。

爆心地から約4・4キロ南にある妙行寺。あの日、屋根瓦が飛ばされ、柱が傾いた。被爆翌年の1月に生まれた三角さんが物心ついたころにも、寺はまだ雨漏りしていた。三角さんは母の武子（たけこ）さんのおなかの中で被爆した「胎内被爆者」。身重だった母は寺の墓に隠れて原爆の爆風を逃れ、三角さんを守った。

原爆そのものを知るわけではない。それでも原爆を伝えていくために何かしないといけないとの思いを持ち続けてきた。僧侶として平和を祈り、垣根を越えて宗教指導者が集まる長崎県宗教者懇話会の活動に関わる。核廃絶を求める署名を集めて国連に届ける高校生平和大使の活動も応援するようになった。

爆心地から4キロ南に離れた大浦地区も、原爆とは無縁ではなかった。三角さんは武子さんから当時のことを聞いた。寺の本尊は本堂の外まで飛ばされたという。父の和夫（かずお）さんは陸軍に召集され、母が寺を守っていた。

8月9日。三角さんを身ごもった武子さんは妊娠6カ月だった。空襲警報を聞き、境内の大きな墓にとっさに隠れた。前もって決めていたのか、本堂にいた母は毛布が何か

を一つ取ると墓に逃げ込んだ。ピカッとした光を見て高さ1メートルほどの石の扉を閉じると、爆風が襲った。扉が開きかけたというが、難を逃れた。この石の扉が母と三角さんの命を救った。「爆風がすごかった。爆弾が墓の前に落ちたと思った」と語っていたという。

長崎港を見下ろす高台に立つ妙…

海底に特攻艇「震洋」のエンジンか 千葉・館山沖に残骸
朝日新聞デジタル川上眞 2017年8月24日 03時55分



館山市沖で見つかった震洋の爆薬とみられる残骸。漁網が何重にもからまっていたという＝波左間海中公園の荒川寛幸さん提供



太平洋戦争末期に日本海軍が造った特攻艇「震洋」のエンジンなどとみられる残骸が、千葉県館山市沖の海底で見つかった。館山には当時、震洋の特攻隊基地があり、敗戦時に上官の命令で特攻艇を沖合に沈めたという元兵士の証言と合致する。戦争遺跡研究者は残骸が震洋のものと確認されれば、「貴重な発見。次の世代に語り継ぎたい」と話す。ベニヤ板製の「特攻」ポート 「お国のため」の命とは？

残骸を見つけたのは、ダイビングサービス「波左間海中公園」を運営する荒川寛幸さん（79）。約半年前、波左間漁港の北西沖約1キロの水深32メートルの海底で、長さ1メートル余りのエンジンと直径約30センチのスクルーとみられる金属塊のほか、爆薬とみられる塊を見つけた。爆薬に信管らしいものは付いておらず、直ちに危険とは考えていないという。

館山市波左間には太平洋戦争末期、第59震洋隊（総員176人）の基地があった。防衛省防衛研究所の所蔵史料によると、震洋の格納壕（ごう）や燃料、食糧などの地下壕が建設され、1人乗り震洋53隻と2人乗り震洋5隻が

配備予定だった。海岸には発進用のコンクリート製スロープも建設された。一部は現在も残っている。

荒川さんは残骸が震洋のものではないかと、知り合いのメディア関係者に相談。関係者が震洋の元搭乗員に照会した結果、「震洋のものに間違いなし」との答えを得たという。

第59震洋隊の整備兵として終…

コーヒーを手に平和を考えませんか 長崎のスタバに掲示

朝日新聞デジタル森本類 2017年8月23日 14時20分



ボードにつづられたメッセージ（長崎市、スターバックスコーヒージャパン提供）

1杯のコーヒーから平和を考えよう——。コーヒーチェーン「スターバックス」の「みらい長崎ココウオーク店」（長崎市茂里町）に、こんな趣旨のメッセージが掲げられている。

メッセージは、店内の一角にある「コミュニティボード」につづられている。コーヒー豆について「ほとんどがアフリカや中東、ラテンアメリカなどの政情の不安定な地域から輸入をしています」とし、内戦や紛争によって「来年から飲めなくなることもあるのです」と伝える。

「戦争と平和というと、あまり身近に感じないかもしれませんが」。でも、いま飲んでいるコーヒーやフラペチーノが飲めなくなるかもしれない。そう思うと、平和について考える一つのきっかけになるのでは、と問いかけ「今年長崎は戦後72年目の夏。あなたにとって“平和”とは何ですか?」。メッセージは、そう締めくくられている。

スターバックスコーヒージャパン（本社・東京）によると、コミュニティボードは店側と利用客が交流を図るためのもので、各店舗にある。今回のメッセージは、平和への強い思いを持つ若いスタッフたちが考え、7月7日から掲示している。

同社によると、全国の各店舗は…

戦争体験記 「戦争は地獄」 第30集出版

毎日新聞 2017年8月24日 東京朝刊



日本中から集まった戦争体験記や、戦争経験者の子や孫による伝承記を収録した「孫たちへの証言」第30集が今月、出版された。大阪市の新風書房が1988年から毎年、刊行している。空襲や被爆体験、家族の戦死などのつらい記憶とともに、平和を願うメッセージも寄せられた。

東京・銀座の泰明国民学校では45年1月、空襲により教員4人が亡くなった。当時、6年生だった男性（84）は「今は大勢の人でにぎわっている銀座にも、悲しい歴史があったことを決して忘れてはならない」とつぶっ…

シベリア抑留 犠牲者を追悼する集い 千鳥ヶ淵戦没者墓苑

毎日新聞 2017年8月23日 18時08分(最終更新 8月23日 21時23分)



シベリア抑留の犠牲者を追悼する集いで、手を合わせる池田幸一さん（中央）＝東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で2017年8月23日午後2時11分、大前仁撮影

第二次大戦の終結後、旧ソ連が日本兵らを連行して強制労働をさせた「シベリア抑留」による約6万人の犠牲者を追悼する集いが23日、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で開かれ、約180人が参加した。帰還者や遺族らが毎年開いており15回目。帰還者のほとんどが90歳を超える中、犠牲者一人一人の氏名など実態解明を急ぐよう、国に求める声が上がった。

遺族の藤澤知保さん（68）＝横浜市＝は、抑留中に死

亡した伯父の大川義俊さんの記録がロシアで見つからず、遺骨も戻ってきていない。帰還者の証言では、満20歳だった1946年にチタ州ハラグンで栄養失調のため亡くなったとされるが「死亡記録がないことは、この世に存在した証しがないこと。何と切なく、悲しく、哀れではないでしょうか」と言葉を詰まらせた。旧ソ連の記録が見つからない死者は約1万4000人いるとされる。

帰還者の池田幸一さん(96)＝大阪市＝も主催者あいさつで「日本とロシア政府は、どこに責任があったかを分かりやすく説明していただきたい」と訴えた。

集いは旧ソ連の独裁者スターリンが45年8月23日に日本人抑留を秘密指令したとされることを受け、この日に開いている。約60万人が旧ソ連各地やモンゴルなどに最長11年抑留され、鉄道や道路建設などのインフラ整備に従事させられ、寒さや飢えから死者を出した。【青島頭】

シベリア抑留の犠牲者 追悼式典 東京

NHK8月23日 16時47分



終戦直後にシベリアなどに抑留され、厳しい寒さのなか過酷な労働を強いられて亡くなった人たちを追悼する式典が、東京で開かれました。

きょう8月23日は、72年前に旧ソビエトが、中国にいた元日本兵や民間人をシベリアなどに移送する指令を出したいわゆるシベリア抑留が始まったとされる日です。東京・千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑では、元抑留者や遺族でつくる団体が15回目となる追悼式を開き、およそ180人が参列しました。

はじめに全員で黙とうをささげたあと、元抑留者の佐藤甲子雄さん(94)が「現地で亡くなった仲間のごことは今も忘れることができない。戦争が終わったあとに、なぜ抑留や強制労働が行われたのか、国は背景や実態をしっかりと調査してもらいたい」と訴えました。

厚生労働省によりますと、シベリアやモンゴルに抑留された日本人のうちおよそ5万5000人が、厳しい寒さや飢えで亡くなったとされていて、このうち6割に当たるおよそ3万3000人については、今も遺骨が現地に残されているということです。

毎年追悼式に参列しているという元抑留者の山口佐一さん(93)は「高齢なので、来年来られるか分からないが、亡くなった仲間たちを供養することは、生き残った私の使

命だと思っている」と話していました。

しんぶん赤旗 2017年8月24日(木)

シベリア・モンゴル抑留 犠牲者追悼の集い 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 小池氏あいさつ

第2次世界大戦後、シベリアやモンゴルに抑留さ



(写真)シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集いで献花する参列者＝23日、東京都千代田区

れ、強制労働をさせられた旧日本軍捕虜の犠牲者を追悼する「シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い」が23日、東京の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で行われました。各地から参列した元抑留者や遺族は、黙とうし献花しました。

追悼の集いは2003年から、旧ソ連の指導者スターリンが1945年に抑留・強制移送を命じた8月23日に毎年開き15回目。兵士ら60万人以上が抑留され、6万人以上が死亡。元抑留者らは遺骨収集と実態解明を求めています。

「シベリア抑留者支援センター」世話人で元抑留者の池田幸一さん(96)は主催者を代表し「全ての遺骨収集は200年かけても終わらない。日本やロシアなどの政府に問題と責任がどこにあったのか、再発防止のための政策などはあるのか説明してほしい」とのべました。

伯父をシベリアで亡くした藤澤知保(ともやす)さん(68)は、声を詰まらせ「正式な死亡記録はありません。伯父が生きた22年間の証しがないように思え、無念でなりません」と話しました。

日本共産党から小池晃書記局長、島津幸広、畑野君枝両衆院議員が参列し、小池氏は党を代表して、抑留犠牲者に哀悼を表するとともに「シベリア抑留は旧ソ連のスターリンと日本の戦争指導部が“合作”で引き起こしたもの。全容の解明とすみやかな遺骨収集に取り組み、二度と再びこのような事態を繰り返さないため憲法9条を守り抜く」とあいさつしました。

戦後72年の表現者たち / 4止 室積光さん(55年生まれ、作家・俳優) 戦前にも希望と愛、忘れぬ

毎日新聞 2017年8月23日 東京夕刊

室積光さんが主宰する劇団「東京地下鉄劇場」は、全国の小中学校で舞台「遠い約束～おじいさんのタイムカプセル」の上演を18年間、続けている。戦争で命を絶たれた

若者の、夢や友情を描いた舞台作品だ。依頼があれば学校に駆けつけ、その数はのべ100校。脚本、演出、出演をこなす室積さんは「亡くなったのは特別な若者ではない。みなさんと同じ希望も愛情もあった普通の若者だったことを伝えたい」と思いを込める。着想は1999年、東京都内の中学校の校舎で、105年前のタイムカプセルが発見されたというニュースから得た。



室積光さん

33(昭和8)年春、尋常小学校の校庭の桜の木の下に、14歳の少年5人が集まった。「私の将来」と題し…

特集ワイド 作家・横山秀夫さん 毎日新聞記者・萩尾信也 対談／上 共に取材、日航機墜落事故
毎日新聞 2017年8月23日 東京夕刊



昇魂之碑の前で手を合わせる遺族＝群馬県上野村の御巣鷹の尾根で12日午前8時3分

520人の命を奪った日航ジャンボ機墜落事故は、32年の年月(三十三回忌)を経てなお、同時代を生きてきた人々の記憶にとどまる。当時、地元紙記者として墜落現場の御巣鷹の尾根(群馬県上野村)で取材を続け、後に事故を題材にした小説「クライマーズ・ハイ」を著した作家の横山秀夫さんと、事故の夏から犠牲者の家族への取材を重ねてきた毎日新聞の萩尾信也記者が語り合った。【構成・沢田石洋史、写真・和田大典】

【続きあり】

武田泰淳作品、上海に 特攻隊描いた「神鷲」 研究者が発見

日経新聞 2017/8/23 10:48

戦後派文学を代表する作家で、小説「ひかりごけ」で知られる武田泰淳(1912～76年)が、日中戦争末期の中国・上海で執筆した作品があることが23日、分かった。神風特攻隊を題材としており、奈良大の木田隆文准教授(日本近代文学)が、上海図書館所蔵の書籍「神鷲」に掲載されていたのを確認した。

武田は当時、上海の「中日文化協会」で翻訳の仕事に携わっていたが、現存する資料が乏しく、具体的な活動はほとんど知られていなかった。木田准教授は「武田の創作的原点を示す貴重な資料」と話している。

書籍「神鷲」は非売品で、45年4月に刊行。戦意高揚を目的に、現地紙「大陸新報」などが特攻隊をテーマにした短歌や俳句などを募集し、その入選作をまとめた。

武田は同書の編集委員を務めており、書籍と同名の「神鷲」というタイトルで約900文字の文章を寄稿。文中で「神鷲(特攻隊)は徹底して無欲である」「実におどろくべき科学的正確さで『死』行為を遂行した」などと書いていた。

一方、武田は作品の末尾で特攻隊について感得するには、報道や宣伝は必要ないとも記した。木田准教授は「この書籍の必要性を否定しており、軍への協力を装いながら、翼賛的な目的を脱却させようとしたのではないか」と分析している。

木田准教授は「大陸新報」の記事から、書籍「神鷲」の刊行に武田が関わっていたことを把握。昨年3月に上海図書館に残されていた1冊を閲覧し、武田の作品を見つけた。【共同】